

## 環境対策検討委員会

「11年目に向けて」



環境対策検討委員会 委員 藤岡 民江 ふじおか たみえ

能勢町環境対策検討委員会が設置されたのは、平成12(2000)年6月です。その前身は、平成11(1999)年度の廃棄物減量検討委員会(12回開催、ごみ減量に関する意見をまとめた「提言書」を行政に提出)ですからちょうど10年たちました。

### 環境対策検討委員会の任務は？

- (1) 廃棄物(ごみ)減量化・資源化に関すること。
- (2) 環境美化の普及啓発活動に関すること。
- (3) その他環境施策に関すること。

について意見を出し、話し合うことによって、町行政の環境施策に住民の意見を反映させていくことです。

### 環境対策検討委員会の取り組み

平成19(2007)年度には、第2次ごみ減量計画として、生ごみ対策のテストケースへの取り組みや、一人一日14グラムの減量をしよう、との目標をたてました。

現在、庭木などの剪定した枝をチップ化(細かく砕くこと)し、堆肥として使えるかどうかを実験中です。

平成20(2008)年度には新しくできる焼却施設への搬入基準(1市3町が同じ基準で運び込みます)にあわせた「ごみ分別」、能勢町の排出方法について話し合いました。

この検討委員会では、定例の委員会だけでなく、公募の住民委員を中心として自主活動を続けています。

平成14(2002)年度に「ごみの有料化」について話し合う中で、なんでも行政の責任にするのではなく、住民の視点を持ってできることから行動しよう、と始めました。

学習会やリサイクル施設の見学会、『能勢でくらす』の編集(印刷、折込は行政が担当)、毎年11月23日に開催される「農業・環境フォーラム」への参加(パネル展示)を行なっています。

以前、自主学習会で行政と意見交換のできる場に住民が参加することについて、話し合ったことがあります。活発な議論の中で確認したことは以下のとおりです。

- ・行政によって予定されている施策などがあっても、それを「はい、わかりました」と承認するだけでは意味がない。
- ・行政に対する不満や不信感もあるが、不信感からは何も生まれてこない。
- ・施策などを決定する行政は住民に対し説明責任がある。十分な説明をしてもらおう。
- ・住民委員としての立場を活かすには、いろいろ学んで力をつける必要がある。

この姿勢が、私たち住民委員の心意気です。

あなたも環境対策検討委員会へ！！

「ごみ」はひとつのきっかけです。暮らしと結びついているごみを通して、人と人が手をつなぎ、私たちの町を作っていきましょう。

私たちの活動報告紙『能勢でくらす』の片面では、地域と人をご紹介していきます。

環境対策検討委員の任期は2年で、再任もできます。次回はあなたもぜひ応募してください。



第1号



第2号



第3号



第4号



第5号



第6号